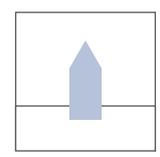


# ⑤ ランドマークとなっている場合



## シンボル性を大切に

周辺の建物が、歴史的景観資源の素材や色彩、意匠形態を安易に模倣してしまうと、シンボル性が損なわれ、建物そのものが陳腐化することがあります。素材の一部や雰囲気を取り入れるなど、協調を考えたデザインにすることで、歴史的景観資源を中心とした景観をつくり出すことができます。



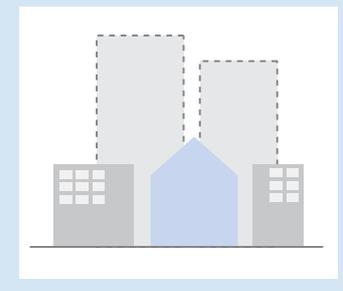
## 歴史的景観資源を眺望できています

ポケットパーク等の視点場があるので、歴史的景観資源への眺望を楽しむことができます。



## 高層部のデザインは遠くからでも認識されます

高層の建物は遠くからでも認識できるので、色彩や素材を周辺の建物や背景にある山並みなどの眺望に配慮することで、歴史的景観資源をより際立たせることができます。



### 景観まちづくりのPOINT

## 様々な位置から見てみましょう

視点位置を変えることで、歴史的景観資源が周辺建物の手前に見える場合、背後に見える場合など、両者の見え方は変化します。それぞれの位置関係に応じて、歴史的景観資源の良さを最大限に引き立てる景観づくりを考えましょう。

